ZINBUNKEN ACADEMY

人文研アカデミー2022
オンライン シンポジウム

日本古代中世の仏像彫刻

―阿弥陀如来の変容をさぐる―

香合仏（江戸時代）
©Haruhi Okuyama

［報告］

田中 健一 文化庁文化財第一課 文化財調査官
「飛鳥奈良時代の阿弥陀造像」

高橋 早紀子 愛知学院大学文学部 准教授
「平安時代における阿弥陀の印相転換」

山口 隆介 奈良国立博物館 主任研究員
「快慶研究最前線 ―阿弥陀如来像を中心に―」

［総合討論］
ファシリテーター
佐々木 守俊 清泉女子大学文学部 教授

司会 **稲本 泰生** 京都大学人文科学研究所 教授

2022年12月4日［日］
13：30～17：30

オンライン開催

主催：京都大学人文科学研究所
お問い合わせ：z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

視聴を希望される方は、以下のURLまたは二次元コードから事前登録をお願いいたします。
https://zoom.us/webinar/register/WN_SrJSzSB5R8SxNQ8nm_A-jQ
ご登録いただいたメールアドレスに追って視聴用URLが送付されますので、シンポジウム当日はそちらのURLにアクセスをお願いいたします。

人文研アカデミー2022 オンライン シンポジウム

日本古代中世の仏像彫刻

―阿弥陀如来の変容をさぐる―

開催にあたって

日本の仏像彫刻にはさまざまな種類がありますが、阿弥陀如来は最もなじみ深い尊格の一つです。西方極楽浄土で教えを説く姿や、往生者を臨終時に迎えに来る際の姿が、思い浮かぶ方も多いのではないでしょうか。

阿弥陀如来の彫像は飛鳥時代以来切れ目なく造立され、法隆寺の橘夫人厨子、広隆寺講堂の本尊、定朝による平等院鳳凰堂の本尊、快慶による浄土寺浄土堂の三尊像など、数々の名作が生まれました。その豊かな系譜は、日本彫刻史の縮図を示しています。

このシンポジウムでは、調査研究の第一線で活躍中の研究者による最新の報告と討論を通し、阿弥陀彫像における造形の時代性と魅力に迫ります。

講師

田中 健一

文化庁文化財第一課 文化財調査官

専　門　日本彫刻史

主論文　「法隆寺金堂木造天蓋をめぐる諸問題」（『京都美術史学』２号、2021年）など

講師

高橋 早紀子

愛知学院大学文学部 准教授

専　門　日本彫刻史

主論文　「広隆寺講堂阿弥陀如来像の造像背景と道昌」（『京都美術史学』２号、2021年）など

講師

山口 隆介

奈良国立博物館 主任研究員

専　門　日本彫刻史

主論文　「東大寺の鎌倉再興における僧形八幡神坐像造立の意義 ―蓮華座の構造を手がかりに―」（栄原永遠男・佐藤信・吉川真司編『東大寺の新研究３ 東大寺の思想と文化』法蔵館、2018年）など

ファシリテーター

佐々木 守俊

清泉女子大学文学部 教授

専　門　日本仏教美術史

主　著　『平安仏教彫刻史にみる中国憧憬』（中央公論美術出版、2017年）

司会

稲本 泰生

京都大学人文科学研究所 教授

京都大學人文科學研究所
Institute for Research in Humanities, Kyoto University

©Haruhi Okuyama